

東北風土マラソン & フェスティバル2016

登米から 東北の魅力発信



1 イベントを支えるボランティア。大会の成功は裏方の力があってこそ
 2 エイドステーションでは、東北の名産品が振る舞われ、ランナーは舌鼓を打った
 3 今大会から追加されたリレーマラソン。1チーム4～8人で構成し、制限時間内での周回数を競った
 4 マラソン終了後は、東北の食と酒を楽しむ
 5 会場内では、先日発生した熊本地震被災者支援の募金活動が行われた
 6 競技として走る人、風景と食を楽しむ人、仮装して盛り上げる人。風土マラソンには、さまざまな楽しみ方がある

菅原由貴さん(迫町錦東、写真右)
 ビザなど石窯料理を宅配する「石窯工房HAIJI」を夫と営んでいます。今回で2度目の出店です。国内だけではなく、海外からも参加者が訪れるイベントはなかなかありません。このような貴重なイベントは、長く続けてほしいですね。



Interview

参加者・来場者に聴く



佐藤正男さん(中田町浅水新田)
 1回目から参加しており、今年はハーフマラソンに出場しました。市外のランナーや出店者と話したときに「登米市はさまざまな食べ物があっていいね」と言われました。走っているときに食べた油麩丼は格別でした。沿道での応援者が増えているので、臨時的な駐車場が確保できれば、よりよいと思います。

佐藤由紀さん(仙台市、写真左)
 夫が登米市出身なので、家族で遊びに来ました。本当はマラソンに参加したかったのですが、出産したばかりなので来年の楽しみに取っておきます。登米市は食も人もいい所。このイベントをきっかけに、多くの人に登米市を知ってもらいたいですね。



ランニングチームの皆さん(山形県山形市)

ランニングチームのメンバーで、リレーマラソンにエントリー。走った距離が、東日本大震災や熊本地震の被災者の皆さんへ募金しようと決めていたので、思いを込めて全力で走りました。来年もまたこの地に来ます。



西條沙耶さん(豊里町新町)

高校の友達4人でボランティアに参加しました。昨年、参加した友達に誘われたので。マラソンのボランティアは初めてですが、ランナーやいろいろな人と交流できて楽しいです。宮城に住んでいても、知らない特産品があってびっくりしました。



進化し続ける 参加型イベントに

東北風土マラソン & フェスティバル副実行委員長
発起人代表

Takekawa Takashi
竹川隆司さん



東日本大震災の復興支援を目的に始めたこのイベントも、今回で3回目を迎えました。多くの皆さんの協力により、本年も約3万8千人のお客さんが訪れ、盛会裏に終えることができました。ご協力いただいた皆さんに、あらためて感謝申し上げます。
 毎回、来ていただいた皆さんに楽しんでもらえるよう、少しずつ内容に手を加えています。今回は、マラソン種目に「リレーマラソン」を追加。職場など、チームで楽し

めるものを増やしました。仮装もテーマを設けています。アニメのトトロやパン三世など、ユニークなスタイルで、会場を盛り上げてもらいました。
 このイベントは、昨年度「観光王国みやぎおもてなし大賞」を受賞しました。地元の魅力を発信し、多くの住民やボランティアが大会運営を支える「住民参加型」であることが評価されたからです。これからも、皆さんと共に、登米市と東北の魅力を発信し続けていきます。

東北風土マラソン & フェスティバル2016(同実行委員会主催)は4月23、24の両日、迫町長沼フットピア公園を主会場に開催されました。マラソンは、23日にリレーマラソン、24日にフル、ハーフなどが開催され、国内外から約4000人が参加。ランナーたちは、コース内のエイドステーション(給水所)で、登米市産仙台牛や油麩丼、気仙沼市のふかひれスープ、南三陸町のめかぶなど、東北の食を楽しみながら、春の長沼を駆け抜けました。お祭りランの本場、メドッ

クマラソン同様仮装するランナーが数多くいました。今年のテーマは「ドレスアップ」。正装した紳士、淑女たちが、見るものを魅せました。
 東北の特産品の飲食・物販ブースが並ぶフードフェスティバルには、延べ約3万8千人が訪れ、東北の日本酒が勢ぞろいする東北日本酒フェスティバル、酒蔵見学や南三陸の沿岸部を巡る東北風土ツーリズムも同時開催。
 東北の魅力を味わえるこのイベントは、ランナーも、観光客も、そして地元民も、みんなが楽しめた2日間でした。